



南雲和夫

温暖化は地球規模に拡大し、CO₂の排出量削減は時代の命題となっている。
 バイオマスタウン構想のエネルギー資源化は、廃棄物の減量化と併せ自然環境にやさしい循環型社会を形成して行く観点からも早急な取り組みが必要であるが、町の特性として旅館や飲食店から発生する生ゴミは有機肥料としてリサイクルすることで作物生産者に還元し、そこから生み出される消費者への食の安全、安心の提供することは、観光立町に付加価値を生むこととなる。また、生産者の意欲を高め、ブランド化や販売所の設置等の新たな事業展開が考えられる。
 ゴミの減量化は個々の意識の課題でもあり、南魚沼

事業系生ゴミを資源として堆肥化を

市の処理施設までの距離と時間を考慮すればコスト削減が図られ町民の利便と利益につながる。実態に即した検討を進める必要があると考えるが。

質問

1. バイオマスタウン構想の実現はいつ頃か。
2. リサイクル施設を推進する考えは。
3. 堆肥の無料化と、過剰な量の他市町への有償提供の考えは。
4. 施設の官民共同運営の考えは。

町長答弁

1. 湯沢町の構想を十分に考慮した中で、南魚沼市、十日町市が構想をまとめていることから、市と連携をしていくことが必要で

あり、現実的には相当な時間が必要と考えている。
 2. 木質固形燃料化は既に十日町市に民間のプラント製造施設があり、南魚沼市でも民間企業で工場施設建設の計画があると聞いている。連携し相互利用することが懸命と考えている。

3. 販売先を確保することがもつとも重要な経営戦略となることから、町内にだけ固執することなく、広く検討していく。

4. 構想の事業化計画策定や実施設計等の検討には、コスト、収支計算、販売先等を十分に考え事業化しやうていけるかということが重要な要素となる。実績のある民間企業が協力をしてくれることは大歓迎である。

質問

構想が負担と受益との関係で、住民の求めているものと差異があるとしたら考え直すことも必要である。過大な負担が発生するとして、将来の福祉政策の足かせとなり、「身の丈」にあつた判断も考えていかざるを得ない。試算状況はどうなっているか。

産業観光課長答弁

二市も骨子がまとまった段階であり、私どもが委託をしたところと同じ日本有機資源協会が策定作業をしている。事業計画及びその先の実施計画を待っている段階である。

町長答弁

町民がより有利になることを優先に考えていきたい。

質問

ボランティア、NPOの支援体制について

5年後10年後の地域ゴミ

ユニティのあり方や互いに助け合える官民協働による住民参加の町づくりを展開するためにも、自発的に使えるファンドの創設が必要と考える、将来像も含めての考えは。

町長答弁

行政の手の届かないところでの活動や、地域住民が望んでいるさまざまな分野の活動を通じ地域の安全と活性化に努められていることに、感謝と敬意を表するものであります。

現段階での基金の創設は考えておりませんが、制度と取り組みは時代要請で必要となつてくると考えられますので、行政としても常に研究をしていきたい。